

里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	(地域レベルでの取組基盤の整備)協働と持続性確保のための枠組み・体制の整備
手法名	地域と連携した干潟環境の再生(干潟生態系の保全)
主体	NPO法人くすの木自然館
背景 (地域の課題)	重富干潟は鹿児島湾唯一の干潟だが、ゴミが散乱し人も近づかないところになっていた。干潟は海の生物のゆりかご、水質浄化などの機能をもっているが、「昔いた生き物が見られなくなった」というのが地域の人々の声であり、ネガティブなイメージが払拭されなかった。
手法/方策の詳細	<p>荒廃した重富干潟を整備し、地域の人々が再び足を運ぶようになった当初、人々の反応は、「昔は干潟にたくさんの生きものがいたのに、今では見られなくなった。環境悪化によるものだろうから仕方がない」というものだった。</p> <p>NPO法人くすの木自然館では、貴重な干潟の生態系の回復のため、「生き物が減った」と感じられた原因の究明と、適切な調査を大学とも連携して実施した(干潟の底生生物調査、底質調査、野鳥の利用調査、50年前の水質比較のための堆積物調査等)。</p> <p>すると、干潟の地質が砂利から砂に変化し生物相が変化したために、地域の人には「生き物が減った」ように見えていたに過ぎないことがわかった。</p> <p>このような科学的な調査結果をもとに正しい認識のもとで、以下の取組を始めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を一般向けにわかりやすく説明(展示)する(「小さな博物館」を開設) ・インストラクターを人材育成、調査結果を小中学校の環境学習に生かす ・小さな博物館にカフェを併設し、地域住民との協働のきっかけづくり <p>このような取組の結果、地域住民、子どもが干潟および保全活動への理解を示し活動に参加するようになり、沢山の地域の人々が散歩や食事、海水浴など、干潟に親しむようになり、保全に向けて大きく前進することとなった。</p>
手法・技術的視点	生態系に関して科学的調査をきちんと行う。その上で、地域の人々や離れていた人々にわかりやすく説明する機会をつくったり、展示場所にカフェを併設するなど気軽に足をはこんでもらえる場をつくる。
<p style="text-align: center;">連携のコーディネート</p> <p style="text-align: center;">●生態系調査 ●調査のための資金援助 ●人材育成 ●地域での環境教育</p>	
参考資料	里なび研修会in鹿児島 浜本麦 NPO法人くすの木自然館専門研究員